

令和3年度第2回函館市魚類等養殖推進協議会に係る意見について

○議 事 1 令和4年度（2022年度）以降の養殖事業の取り組み

- (1) キングサーモン養殖に関する取り組み
- (2) コンブ養殖に関する取り組み

委員名	ご意見
千葉委員 (銭亀沢漁協)	<p>近年、海水温の上昇など海洋環境の変化などに伴い、天然コンブが減少しており、養殖コンブの母藻採取などにも影響がでてきています。</p> <p>今回、コンブの完全養殖研究などを進めるとのことですが、今後もコンブ養殖漁業を維持していくためにも、着実に研究が進み、漁業現場に研究成果の導入が図られることを期待しております。</p>
中村委員 (南かやべ漁協)	<p>コンブ養殖漁業は、当地域の基幹漁業であり、函館市全般の漁業を持続させていくには、必要不可欠なものと考えられる。</p> <p>しかしながら、近年は、天然資源の減少から養殖コンブの母藻確保に苦慮し、また、種苗仮殖時における魚類による捕食被害など、コンブ養殖に関する問題が頻出していることから、今回のコンブ養殖に関する研究を遅滞なく進め、今後のコンブ養殖漁業の持続・発展に繋げていただければと思います。</p>
平松委員 (北海道大学大学院 水産科学研究院)	<p>浮沈式生け簀耐久度調査に関しまして、来年度に設置した後、当該試験海域において、浮沈の基準を定めて（基準値として波浪の高さなど？）、生け簀養殖期間にどの程度の頻度で沈めなければいけなかったかのデータを取っていただきたく思います。</p> <p>沈めている間は給餌できないので、給餌できない期間が海面養殖期間（11月～5月）の間でどの程度あるのか知るとはとても重要と考えます。</p> <p>また、生け簀が壊れないことと、魚が弱らないことの、浮沈基準は異なると思われます。生け簀が壊れなくても、波浪で揺れて魚が網で揉まれると弱って死んでしまったり、餌を食べないことが危惧されますので、この点については沈めるときの基準を網企業様と良くご協議の上、決めておくとういことと思います。</p>